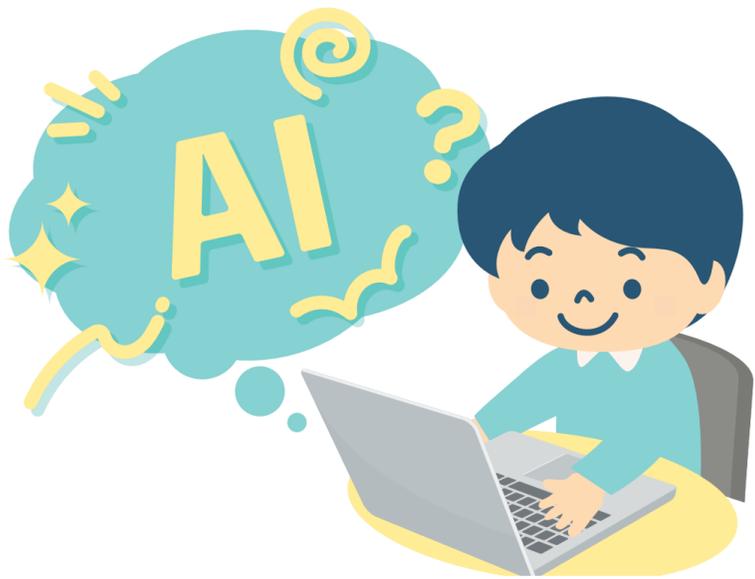


名前 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 組 \_\_\_\_\_

記者コラム

AI活用し挑戦を

質問にすらすら答え、求めに応じて文章や絵などを瞬時に作り出す。そんな生成人工知能（AI）の機能がパソコンやスマートフォンで気軽に使える時代が到来した▼手を動かしてもものを生み出す労力は確かに減る。作業の①は人手不足が叫ばれる地域社会の力になるかもしれない。②、人間の③が衰えないかといった漠然とした怖さは付きまとう▼さまざまな仕事での普及は今年も加速するだろう。①ばかりでなく、AIを活用して新たな③ができないか。そんな姿勢で使いこなしたいものだ。



※【漠然】はつきりしていない様子。  
※【普及】広く行きわたること。

① 記事中の ① ② ③ に当てはまるものを、次のア～オから選んで ① の中に記号を書きましょう。

ア 挑戦      イ 複雑化      ウ 効率化      エ 創造力      オ 体力

①       ②       ③

② 記事中の  に入る適切な言葉を次のア～ウから選んで、 に書きましょう。

ア また      イ さらに      ウ ただ     

③ あゆむさんとみほさんは、記事の内容について話しています。 に当てはまる内容を、次のア～ウから選んで、 に記号を書きましょう

みほ : AIは、わたしたちの暮らしにとって身近な存在になってきたね。

あゆむ : そうだね。でも、近い将来、今行っている人の仕事の多くは、AIにかわるというニュースを見たことがあるよ。AIが、人間の生活を大きく左右していくのかな。どうなるのかな。

みほ : だからこそ、

あゆむ : これからも、いろいろな角度からAIの活用について、いっしょに考えてみたいね。

- ア もっと人間が楽しくらせるように、AIの開発をするべきだと思う。
- イ 人手不足は深刻な問題だから、全ての職種でAIが使えるようにしてほしい。
- ウ AIの力と人間のもつ力の両方のよさを生かすことができるように開発が進んだらいいと思う。